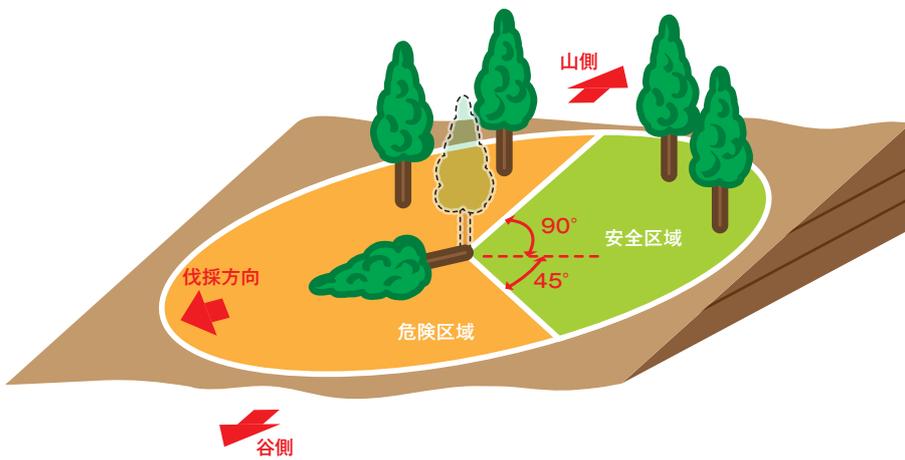


太田切川に生えている **木** を切ろう！



太田切川は昔から度々氾濫を繰り返してきた暴れ川。河川敷に繁茂し、樹木は“支障木”と呼ばれ、洪水時に川の流れの妨げとなります。支障木の伐採は災害被害の軽減と環境保全の効果が期待できます。体験プログラムでは、実際に支障木の伐採を行い、災害被害の軽減と環境保全のありかたを学びます。

伐採の手順 その1



① 切り倒す方向を決める

立木を倒す方向は、周囲の地面の凹凸、障害物の有無、立木の傾き、風の方向などを考慮して決めます。そして作業者に危険がないように、次の作業の都合を考えて決めます。また、傾斜地にある立木の切り倒す方向は、横方向または斜め下へ倒します。

*斜面の上側へ倒せば、切り倒した材が滑り落ちて作業者が危険ですし、真下の方向では、切り倒した木が地面に強く当たって材が折れたり割れたりする恐れがあります。なお、切り倒す立木の高さの二倍の範囲が危険区域となります。

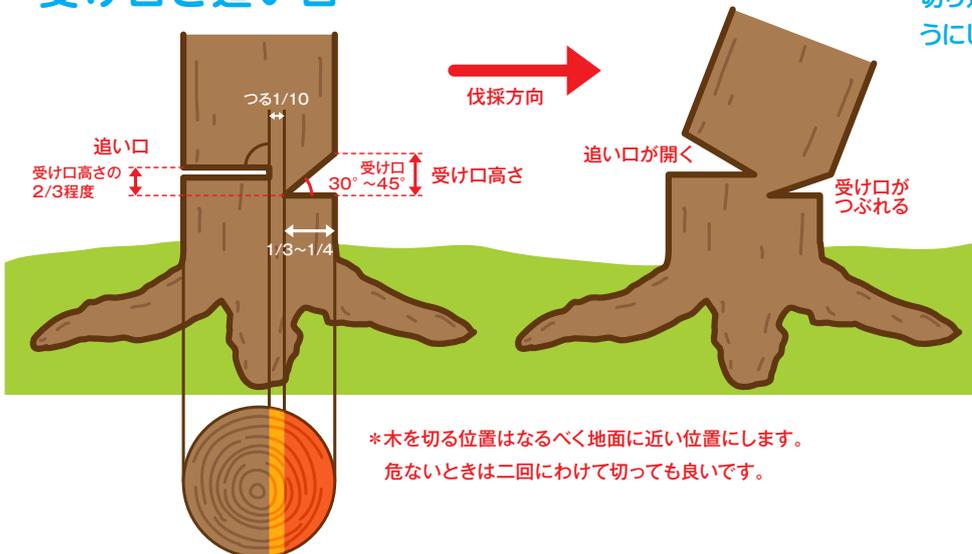
② 受け口を切り込む

倒す方向が決まれば、その方向に合わせて正確に「受け口」を作ります。受け口の深さは材の直径の1/4～1/3くらいが適当で、受け口の斜めに切り込んだ位置が、「追い口」の面と一致するようにします。

③ 追い口を切り込む

追い口は、受け口の高さの下から2/3程度の位置を、水平に切り込んでいく。切り進めていくときは、「つる」の幅が同じになるようにします。

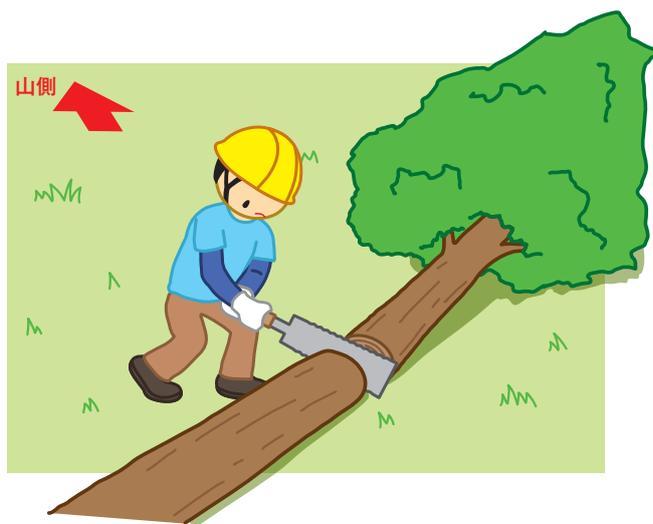
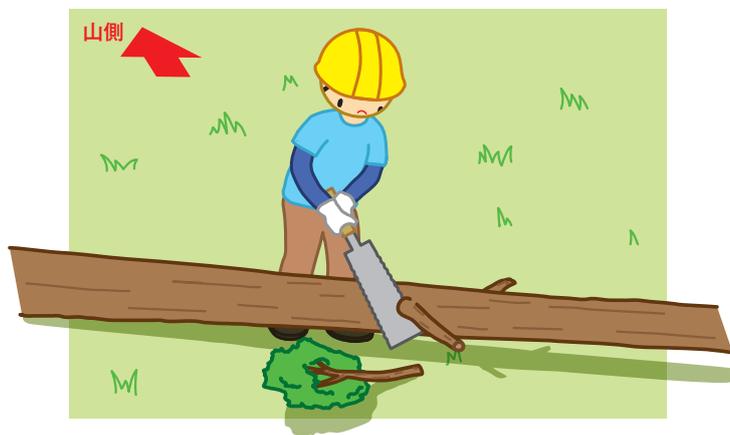
受け口と追い口



裏面に続く ▶



伐採の手順 その2



④ 枝払いを行う

枝払いは、根元側の枝から順にこずえに向かって行います。

枝払いの作業をするときは、木が転がりださないように安定していることを確認し、作業者は山側・斜面上部に立ち、足場をしっかりと確保します。

また、地面との間で押さえつけられている弓状になっている枝は、枝の跳ね返りを防ぐため、切り込みを入れて反発力を弱めてから切り払います。

⑤ 玉切りを行う

枝払いした木は、適度な長さに切断し丸太にします。

玉切り作業をするときは、木が転がりださないように安定している場所で行います。

また、転がった木に挟まれないように、作業は山側・斜面上部で行い、足を木の下に入れないようにします。

⑥ 集材作業

作業がすべて終わったら、丸太になった木材や払い落とした枝等は所定の場所に運んでまとめておきます。

注意事項

1. 伐倒作業では、木が割れて跳ねたり、思わぬ方向へ倒れたりすることもあるので、危険な作業の一つです。小さな木でもその重量は大きなものです。十分に注意して作業しましょう。
2. 切る立木に、切り倒す方向を変化させる「ツタがらみ」や「枝がらみ」、また、落下しそうな枯れ枝がないか確認しましょう。
3. 立木を切り倒す方向に、他の参加者がいないかどうか確認し、まわり人の安全に注意しましょう。
4. 切り倒す作業は、いざというときの避難場所・避難路を確認してから始めましょう。
5. 切り倒した木が、かかり木となった場合は、樹幹を廻したり、元口（切り込みをいれた根本部分）をすらしたりして外すようにしましょう。
6. 枝払い、玉切り作業は、木が転がり出す危険があります。木に挟まれないように十分注意して行いましょう。
7. 危険防止のためヘルメット、軍手を着用しましょう。